

報道
解説
評論

朝日ジャーナル

1975
Vol.17
No.40 220円
9・15

あなたは核兵器を知っているか 臨時増刊



米戦略空軍指令部にある核ホットライン

昭和五十四年九月十五日発行
昭和五十四年九月十四日国鉄管理局特別換金証書第四五三三号
昭和五十四年九月十五日国鉄管理局特別換金証書第八七八八号

一二日の夜おそく、自転車を引きずって伯父が帰って来た。伯父は玄関に坐りこんで、「なんもかんもしまい」、風呂敷を開いた。こまごまの骨と灰が入っていた。伯父は医科大学付近で救護活動をしている医科大学生に、息子の安否を聞いた。学生は確かなことはわからないが、と前置きして講義を受けていたはずだ、と教室の番号を覚えてくれた。息子が大学に入学したとき伯父は何かと用事を作って、大学に出かけた。尋常小学校四年で終わっている伯父は大学が珍らしく、嬉しかった。

そのおかげで大学の内容は詳しく、だいたい見当がついた。

目星をつけた教室の床に、骨と灰があった。一体ずつ骨と灰が山になって輪をつくっている。胡座をかいで全員が座ってでもいたような奇妙な骨の盛り上がりだった。数えるとい九体あった。中央に骨と灰が二体あった。教授先生だな、と伯父は察しをつけ、外輪の一つ一つを調べた。散らばらぬように指先で灰をあさり、歯を探した。中学生頃から歯が弱く、金冠をかぶせた歯が数本ある。

「金くい虫たい、どら、口をあけてみる」伯父は金額を覚えていて幾らした歯だ、と母たちに説明した。

歯がみつければ死は確実だ。一つの灰と骨の中に、金の粒が光った。取り出すとすっかり溶けて固まっている。息子と断定する証拠品はどの山にもない。伯父は輪の中央に坐りこんで息子は死んでいないのかもしれない、と考えた。希望がでて最後の一体を調べてみると、息子の万年筆のペン先がみつかった。頑丈な金ペンは息子のものである。私の父が入学祝いにドイツ製の万年筆を贈った、そのペン先である。耐えていた涙が一気に溢れて、死んだか、死んだか、と両手で灰を撫でた。

林 京子「祭りの場」から

あなたは核兵器を知っているか

読者 に.....	8
純技術論からも日本は核武装できない.....	今井隆吉 10
テロリストと核.....	D・M・クリーガー 16
「核燃料サイクルの常識」は神話にすぎない ——プルトニウムの危険から世界を守るために.....	B・T・フェルド 25
I 核兵器の現状と将来.....	28
II 運搬兵器とミサイル.....	45
潜水艦.....	堀元美 74
航空機.....	青木日出雄 76
III 核兵器体系とその運用.....	79
IV 核戦略理論の変遷.....	関野英夫 89
座談会 「平和利用」と「軍事利用」の境界はどうなっている？.....	98
今井隆吉 関野英夫 森一久 司会・岸田純之助	
核年表.....	118
二色刷り 目で見る米ソの核戦略体制.....	55
グラビア 核—30年の移りかわり (米国立アトミック博物館に見る).....	3
核のネットワーク (米戦略空軍と北米防空軍).....	119

■表紙=構成・吉田臣 写真・今井今朝春 ■イラスト=穂積和夫、柴又健、大川一夫 ■レイアウト=ぐるーぶ・ばあめ ■写真 WWP タス 朝日新聞写真部 同出版写真部 ■協力 「日本の艦船」「航空ファン」三菱TRW